

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	池上学院グローバルアカデミー専門学校
設置者名	学校法人 池上学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業分野 専門課程	情報システム科	夜・通信	408 時間	204 時間	
	研究科	夜・通信	0 時間	102 時間	
文化・教養分野 専門課程	社会生活学科	夜・通信	404 時間	204 時間	
	社会生活専攻科	夜・通信	0 時間	102 時間	
医療分野	音楽療法士・セラピスト養成学科	夜・通信	0 時間	204 時間	
(備考) 全学科、募集停止中。研究科、社会生活専攻科、音楽療法士・セラピスト養成学科は在校生0名のため開講していない。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.iga.ac.jp/topics/677/ ホームページにて公開

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 研究科、社会生活専攻科、音楽療法士・セラピスト養成学科 (困難である理由) 研究科、社会生活専攻科、音楽療法士・セラピスト養成学科は、募集停止により在校生数が0名のため授業を開講していない。
--

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	池上学院グローバルアカデミー専門学校
設置者名	学校法人 池上学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.iga.ac.jp/topics/677/>
ホームページにて公開

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人タナカメディカル 札幌田中病院理事長	2023. 12. 24 ～ 2025. 12. 23	心身のケアに関する 学生への指導等 の助言
非常勤	学校法人 札幌いずみ幼稚園理事長	2023. 12. 24 ～ 2025. 12. 23	教職員指導等にお ける助言
非常勤	元札幌国際大学 教授	2023. 12. 24 ～ 2025. 12. 23	高大連携等の推進 の助言
非常勤	早稲田大学大学院教授	2023. 12. 24 ～ 2025. 12. 23	高大連携等の推進 の助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	学校法人 池上学園
設置者名	池上学院グローバルアカデミー専門学校

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 1月から2月にかけて、各授業科目の各担当者より、「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、授業計画書(シラバス)案の作成を行う。 3月上旬に職員会議にてチェック・検討し、授業計画書(シラバス)を校長が認定する。 4月の新生および在学生オリエンテーションおよび初回授業にて、授業計画書(シラバス)・成績評価方法について提示・説明をする。 4月に学内サーバーにて、本学生が閲覧できるように公表する。 5月にホームページにて情報を公開。学生以外の方にも閲覧が可能にする。	
授業計画書の公表方法	https://www.iga.ac.jp/topics/677/ ホームページにより公開
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則に則り、授業科目の学習成果について、定時試験、レポート、小テスト、提出物、その他(授業態度など)にて厳正なる評価を行っている。原則として全授業時間数の2/3以上出席した科目(科目によっては3/4以上)についてのみ、定時試験を受験することができる。成績評価については授業科目のシラバスに明記するとともに、授業中にも学生に告知している。 各科目担当教員における成績の評価は100点満点とし、点数によりA～Eに分類し、A～Cを合格と履修を認定している。 評価方法は定時試験、レポート、小テスト、提出物、その他(授業態度など)を総合的に勘案して行う。 学則に即し、所定の時期に実施される各種判定会議にて、職員全体で適正に評価されているかどうかを確認し、校長が履修を認定する。 ・前期成績判定会議(9月下旬、全学生) ・卒業判定会議(3月上旬 卒業対象者) ・進級判定会議(3月中旬 進級対象者)	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
各教科の成績評価は定期試験にレポート・課題提出作品・出席率により算出され、下記成績評価を5段階でA～E評価する。それぞれの段階に対して「4.0」「3.0」「2.0」「1.0」「0.0」のGPを付与する。

令和6年度における各学科の成績分布状況

情報システム科		1 学年 学生数 1 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	0	0
	人数	0	1	0	0	1
備考欄	下位 1 / 4 に該当する人数 : 1 名 下位 1 / 4 に該当する指標の数値 : 3.3 ※学生数が4名以下であることに注意					

情報システム科		2 学年 学生数 3 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	1	2	0	0	0
備考欄	下位 1 / 4 に該当する人数 : 1 名 下位 1 / 4 に該当する指標の数値 : 2.6 ※学生数が4名以下であることに注意					

研究科		1 学年 学生数 0 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	0
備考欄	※学生数が0名である。					

社会生活学科		1 学年 学生数 8 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	4	4	0	0	0
備考欄	下位 1 / 4 に該当する人数 : 2 名 下位 1 / 4 に該当する指標の数値 : 3.1					

社会生活学科			2 学年 学生数 1 人			
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	1	0	0	0	0
備考欄	下位 1 / 4 に該当する人数 : 1 名 下位 1 / 4 に該当する指標の数値 : 3.5 ※学生数が 4 名以下であることに注意					

社会生活専攻科			1 学年 学生数 0 人			
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	0
備考欄	※在籍者なし					

音楽療法士・セラピスト養成学科科			1 学年 学生数 0 人			
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	0
備考欄	※在籍者なし					

音楽療法士・セラピスト養成学科科			2 学年 学生数 0 人			
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	0
備考欄	※在籍者なし					

客観的な指標の算出方法の公表方法		https://www.iga.ac.jp/topics/677/ ホームページにより公開
------------------	--	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
---	--

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

池上学院グローバルアカデミー専門学校学則に則り、授業科目の学習成果について、厳正なる評価を行っている。原則として全授業時間数の 2/3 以上出席した科目(科目によっては 3/4 以上)についてのみ、定時試験を受験することができる。

成績評価については授業科目のシラバスに明記するとともに、授業中にも学生に告知している。それに基づき教員が評価を行っている。年に 2 回、各種判定会議を開き、職員全体で適正に評価されているかどうかを確認し、校長が履修を認定する。

卒業及び進級については、学則に従い、卒業要件、進級要件を満たしているかどうか、3 月に実施される各種判定会議を経て、校長が本校所定の修業年限以上在学し、教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められるときには、各学年の課程の修了又は卒業を認定する。

情報システム科、社会生活学科、音楽療法士・セラピスト養成学科
修業年限 2 年 卒業に必要な授業時数 2040 時間

研究科、社会生活専攻科
修業年限 1 年 卒業に必要な授業時数 2040 時間

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.iga.ac.jp/topics/677/>
ホームページにより公開

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	池上学院グローバルアカデミー専門学校
設置者名	学校法人 池上学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.iga.ac.jp/topics/677/ ホームページにて公開
収支計算書又は損益計算書	同
財産目録	同
事業報告書	同
監事による監査報告（書）	同

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2, 040 単位時間	330 単位時間	1, 710 単位時間	単位時間	単位時間	2, 040 単位 時間
			2, 040 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		1 人	0 人	9 人	4 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。

・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。

各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、副校長に報告する形にしている。

成績評価の基準・方法

（概要）

1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。

この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。

2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。

3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。

4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。

100 点から 85 点まで	評定 A	高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの
84 点から 70 点まで	評定 B	学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの
69 点から 60 点まで	評定 C	おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの
59 点から 40 点まで	評定 D	学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの
39 点以下	評定 E	学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの
5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。		
6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。		
卒業・進級の認定基準		
(概要) 本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したものには、卒業判定会議をへて校長が卒業を認定する。		
また、卒業の認定した者は、専門士としての称号を授与する。		
学修支援等		
(概要)		
入学前面談（三者面談）を実施し、入学後の指導に役立てる。		
入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。		

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
令和 6 年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (67%)	1 人 (33%)
(主な就職、業界等)			
物流センター、ソフトウェアハウス			
(就職指導内容)			
三者面談、個人面談、求人票紹介、就職活動指導など			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
ワープロ検定、表計算検定、C 言語検定、Java 検定、色彩検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
令和 6 年度当初在学者数	令和 6 年度の途中における退学者の数	中退率
3 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
中途退学者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
本人面談、保護者面談の実施。日常から学生とコミュニケーションを取っている。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士			
工業分野		専門課程	研究科							
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類							
			講義	演習	実習	実験	実技			
1 年	昼	1, 020 単位時間	単位時間	1, 020 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間			
			1, 020 単位時間							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
10 人		0 人	0 人		9 人		4 人		13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。 ・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。 各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、副校長に報告する形にしている。
成績評価の基準・方法
（概要） 1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。 この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。 2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。 3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。 4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。 100点から85点まで 評定A 高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの 84点から70点まで 評定B 学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの 69点から60点まで 評定C おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの 59点から40点まで 評定D 学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 39点以下 評定E 学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。 6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。
卒業・進級の認定基準
（概要）本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したものには、卒業判定会議をへて校長が修了を認定する。

学修支援等			
(概要) 入学前面談（三者面談）を実施し、入学後の指導に役立てる。 入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） 研究科			
令和 6 年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考) (任意記載事項) 卒業生なし			

中途退学の現状 研究科		
令和 6 年度当初在学者数	令和 5 年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由) 在学生なし		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	社会生活学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2, 040 単位時間	180 単位時間	1, 860 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2, 040 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		9 人	0 人	9 人	4 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
概要） ・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。 ・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。 各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、副校長に報告する形にしている。
成績評価の基準・方法
（概要） 1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。 この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。 2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。 3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。 4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。 100点から85点まで 評定A 高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの 84点から70点まで 評定B 学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの 69点から60点まで 評定C おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの 59点から40点まで 評定D 学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 39点以下 評定E 学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。 6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。
卒業・進級の認定基準
（概要）本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したものには、卒業判定会議をへて校長が卒業を認定する。 また、卒業の認定した者は、専門士としての称号を授与する。
学修支援等
（概要） 入学前面談（三者面談）を実施し、入学後の指導に役立てる。 入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） 社会生活学科			
令和6年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	1 人 (100.0%)
（主な就職、業界等） 就労継続支援事業所、福祉施設など			
（就職指導内容） 三者面談、個人面談、求人票紹介、就職活動指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 漢字検定、ワープロ検定、表計算検定、介護初任者研修など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状 社会生活学科		
令和6年度当初在学者数	令和6年度の途中における退学者の数	中退率
10 人	1 人	10.0%
（中途退学の主な理由） 進路変更のため		
（中退防止・中退者支援のための取組） 本人面談、保護者面談の実施。日常から学生とコミュニケーションを取っている。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	社会生活専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	1, 020 単位時間	120 単位時間	900 単位時間			
			1, 020 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		0 人	0 人	9 人	4 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
概要） ・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。 ・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。 各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、副校長に報告する形にしている。
成績評価の基準・方法
（概要） 1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。 この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。 2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。 3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。 4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。 100点から85点まで 評定A 高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの 84点から70点まで 評定B 学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの 69点から60点まで 評定C おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの 59点から40点まで 評定D 学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 39点以下 評定E 学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。 6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。
卒業・進級の認定基準
（概要）本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したものには、卒業判定会議をへて校長が修了を認定する。 また、卒業の認定した者は、専門士としての称号を授与する。
学修支援等
（概要） 入学前面談（三者面談）を実施し、入学後の指導に役立てる。 入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） 社会生活専攻科			
令和 6 年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項） 卒業生なし			

中途退学の現状 社会生活専攻科		
令和 6 年度当初在学者数	令和 5 年度の途中における退学者の数	中退率
0.0 人	0.0 人	0.0%
(中途退学の主な理由) 在学生なし		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	音楽療法士・セラピスト養成学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2, 040 単位時間	270 単位時間	1, 770 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2, 040 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		0 人	0 人	9 人	4 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
概要） ・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。 ・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。 各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、副校長に報告する形にしている。
成績評価の基準・方法
（概要） 1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。 この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。 2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。 3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。 4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。 100点から85点まで 評定A 高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの 84点から70点まで 評定B 学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの 69点から60点まで 評定C おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの 59点から40点まで 評定D 学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 39点以下 評定E 学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。 6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。
卒業・進級の認定基準
（概要）本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したものには、卒業判定会議をへて校長が卒業を認定する。 また、卒業の認定した者は、専門士としての称号を授与する。

学修支援等			
(概要) 入学前面談（三者面談）を実施し、入学後の指導に役立てる。 入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） 音楽療法士・セラピスト養成学科			
令和 6 年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項） 卒業生なし			
中途退学の現状 音楽療法士・セラピスト養成学科			
令和 6 年度当初在学者数	令和 6 年度の途中における退学者の数	中退率	
0 人	0 人	0.0%	
(中途退学の主な理由) 在校生なし			
(中退防止・中退者支援のための取組)			

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
情報システム科	200,000 円	360,000 円	435,000 円	
研究科		300,000 円	100,000 円	
社会生活学科	200,000 円	360,000 円	435,000 円	
社会生活専攻科	200,000 円	360,000 円	435,000 円	
音楽療法士・セラピスト養成学科	200,000 円	360,000 円	435,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.iga.ac.jp/topics/677/ ホームページにより公開		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 学校関係者評価委員会において委員の方々に令和 6 年度学校自己評価に基づき評価して頂く。委員には事前に令和 6 年度学校自己評価を配布した上で、学校関係者評価委員会で意見・要望を聞き取り。結果に対しては速やかに改善策を講じ、組織的・継続的に、実社会に応じた学校運営や教育課程の編成・実施に取り組んで行く。 今年の学校評価は、令和 7 年 7 月 31 日に開催予定のため、実施後に改善策等を公表してゆく。なお、令和 8 年 3 月の卒業生を以て休校の予定のため、その期間での改善策等になる。改善責任者は本学校長の池上喜重子とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校法人布川学園 理事長 布川 耕吉	2 年	学校法人理事長
株式会社ほくていホールディングス 取締役会長 加藤 欽也	2 年	企業経営者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.iga.ac.jp/topics/677/ ホームページにより公開		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.iga.ac.jp/topics/677/>